



発行所 秋田魁新報社
秋田市山王臨海町1番1号
〒010-8601
©秋田魁新報社 2014年

号外

購読申し込み
0120-13-1231
ホームページ
www.sakigake.jp
携帯サイト
m.sakigake.jp

詳しくは「秋田魁新報」朝刊、当社ホームページをご覧ください。

赤崎、天野、中村3氏に

ノーベル物理学賞

青色LED開発



中村修二氏



天野浩氏



赤崎勇氏

【ストックホルム共同】スウェーデンの王立科学アカデミーは7日、2014年のノーベル物理学賞を、省エネで長寿命の次世代照明に使われる青色発光ダイオード(LED)を開発した赤崎勇・名城大終身教授(85)、天野浩・名古屋大教授(54)、中村修二・米カリフォルニア大サンタバーバラ校教授(60)の3人に授与すると発表した。

日本人のノーベル賞受賞は、12年の医学生理学賞の山中伸弥京都大教授(52)から2年ぶりの快挙で20、21、22人目となる。物理学賞は10人となり、日本の物理学の高い実力を示した。

LEDは1960年代に赤や緑が

開発されたが、光の三原色のうち青は難航した。名古屋大教授だった赤崎氏は89年、窒化ガリウムの結晶を作り、世界で初めて青色LEDを実現した。中村氏は日亜化学工業(徳島県)で、窒化ガリウムによる非常に明るい青色LEDを独力で作った。

青色LEDは屋外の大形ディスプレイや信号機に実用化。黄色の蛍光体と組み合わせた白色LEDは、白熱電球や蛍光灯に替わる照明として急速に普及、高い節電効果を挙げている。

授賞式は12月10日にストックホルムで開かれ、賞金計800万珔(約1億2千万円)が3人に贈られる。